

Copyright(C) 2011 公益財団法人みちのく未来基金 All Rights Reserved.

みちのく生の近況

With コロナの生活になって半年、みちのく生がどのように過ごしているのか聞きました。



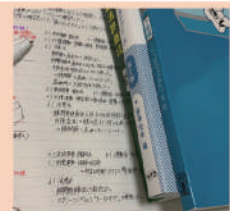
コロナウイルスの感染拡大によって想像とは違った大学生活となりました。しかし、今は週に数回登校できていて友達も沢山できました。大学生活楽しいです！これからも、感染防止対策をしっかりと、過ごしたいと思います！

◀学校の食堂での様子(本人)

9 期生 A.T さん

高校の文化祭で制作した映像が評価されたことがきっかけで、映像制作に興味がわき、今の大学に進学しました。後期から対面授業も始まり、最初は初めての一人暮らしが不安でしたが、家事等もやってみると意外に大丈夫でした。大学での勉強の他、以前からeスポーツの分野でも活動をしているので、また始めたいなと思っています。

9 期生 H.S さん



私が入学した大学は後期から対面での授業を実施しているので、ほぼ毎日学校に行っています。課題のレポートや、初めての大学の授業に苦労することもあります。大学でできた友達と一緒に協力し合いながら取り組んでいます！来年からは病院実習も始まるので、頑張ろうと思います。

◀大学のレポートに取り組む様子

9 期生 A.Y さん

トリマーになるための専門学校に入学しました。学校の勉強も自分がやりたい事を学べるので楽しく、仲良しの友達もできました！学校で飼育している動物たちのお世話当番があるので毎日学校に行くのは大変ですが、動物たちもみんなかわいいのでやりがいもあり、とても充実しています。

9 期生 K.A さん



8 期生
O.T さん

◀夏の宮古島での写真

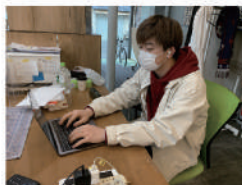
私は大学で未だオンライン授業が主流となっていて、対面授業は週1回程度ですが、だんだん慣れてきました。特にZoomを使ってプレゼンを行うのはオンラインの方が緊張せず自分の意見を話せる気がするので得意になりました。休日はプラモデルを組み立てたり、好きな洋服を買いに出かけたりと楽しい時間を過ごしています。



7 期生
T.S さん

◀サッカーに打ち込む様子(写真左)

コロナ禍の中ではありますが、大好きなサッカーを今でも続けて頑張っています。検温の徹底や消毒、飲み物のボトルを使い回さない等様々な対策を行い感染者を出さずに続けています。社会人サッカーをしているため年上の方が多く、社会で生きていくために何が必要なのかなど、サッカー以外のことも多く学ぶことができています。



8 期生
S.M さん

地域創生の取り組みや林業に興味があり、今は北陸地方での長期インターンシップに参加しています。新型コロナウイルスの影響もあり、やれることが限られている面もありますが、地元の高校生を巻き込んだオンラインイベントを企画したり、模索しながら楽しんで活動しています。



7 期生
G.T さん

3年生になり、学校の勉強も実習などが本格的になってきました。実習を通して実感できた事や学べた事も多く、コロナ禍での制限はありますが実際に現場に行く事ができてよかったと思っています。将来は社会福祉士の資格を取って、施設職員として子どもの成長や母親の育児支援に関わる仕事ができればいいなと思います。



6 期生
M.S さん

4月から大学院に進学する予定です。人の近くで作業するロボットの研究をしています。医者と患者が接触しなくても治療ができるロボットなので、今年の新型コロナウイルスのように今後様々なウイルスが流行したとしても、その治療に役立てることができると思います。大学院卒業後は災害救助等のロボットを開発したいと思っています。

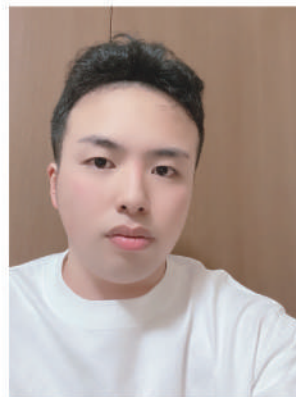


8 期生
A.H さん

◀友人と野球を楽しむ様子

私は現在、教員を目指して日々の学習に取り組んでいます。コロナ禍のため、授業や実習のほとんどがオンラインでの実施となっていますが、モチベーションが低下しないよう、友達と助け合いながらここまでやってきました。これからも学習に力を入れ、立派な教員になれるよう努力をしていこうと思います。

出身地の三陸より寒い八戸で4年間過ごしました。「地震動」について研究し、何とか卒業できそうです。



卒業後は関東で土木建築会社に就職し、頑健な建物を建てられるような設計をしたいと考えています。

6 期生 S.K さん

大学では経済学を学び、友人と一緒に論文を書くといった唯一無二の経験ができました。また、今年はコロナによる影響があったものの、読書や小旅行といった趣味を深めることができました。4年間支えていただいて本当にありがとうございます。4月からは接客の仕事に就きますが今までの経験を大切に日夜精進していきます。

6 期生 K.A さん



▲小旅行先での景色

来春卒業予定の みちのく生近況

進路や残りの学生生活について
話してもらいました。



6 期生 O.R さん

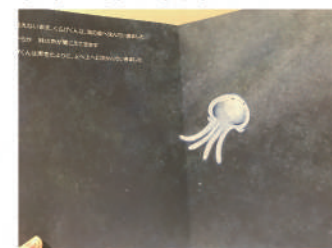
◀大学の学園祭での様子(本人)

大学では法律関係を学びつつ、友達もたくさんできて趣味の旅行を楽しんだり充実した4年間を過ごすことができました。お陰様で内定も決まり、4月から仙台で営業職として働く予定です。今はそのための資格取得に向けて勉強中です。来年からは社会人となりますが今度は私が同じような境遇の学生を支える立場になりたいと考えています。

6 期生 H.M さん

関東の美術系大学で4年間学び、今は卒業制作で絵本を作っています。自分自身の経験を元に「クラゲが体験した津波」というテーマで、子どもにも伝わるようにキャラクターなどを工夫しながら描いています。後輩の皆さんには「苦しいことがあっても意外と何とかなる！」と思って学生生活を大切に過ごしてほしいです。

▼卒業制作の絵本の1ページ



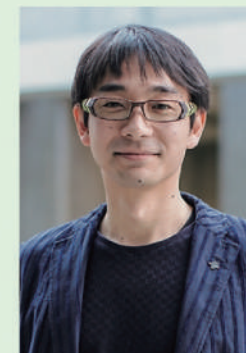
寄附研究のご報告

東日本大震災からもうすぐ 10 年が経とうとしておりますが、有難いことにみちのく未来基金の活動に多くのご理解・ご協力を継続いただいています。基金では、この理由を明らかにし広く社会に発信することで、今後社会貢献活動を行う企業・団体・個人の参考となる情報を提供したいと考えました。そこで、寄附研究専門家である宮城大学の石田准教授、東北大学の岡田准教授の協力のもと、基金への寄附行為の背景要因を専門のインタビュー方式にて調査いただきました。

＜先生方からのコメント＞

日本における寄附行為は年々に広がりを見せているものの、多様な寄附の在り方については発展段階です。今回、みちのく未来基金との協働で十数のサポーターの皆さまにご協力いただき、調査・分析を行いました。本紙では簡単な報告となりますが、未来への学びとして「①一回限りではなく継続的な活動を内容とする」「②運営主体の責任・意志が寄附者に伝わる」「③支援対象に現れる成果を具体的に伝える」ことが重要だとわかりました。今後については学術論文・学会発表等で報告を行い、社会貢献活動が実践される際の参考となるよう取り組みます。

みちのく未来基金では、今回の調査結果を受け、サポーターの皆さまにみちのく生の状況・基金取り組み内容・スタッフの想いを真摯に伝えることが大事だと再認識しました。今後ともみちのく未来通信・ウェブサイトをはじめ、皆さまへの報告を継続して参ります。



宮城大学
石田准教授



東北大学
岡田准教授